新橋小学校
学校だより
令和５年１０月３１日
令和５年度　第８号

「謎の種」

児童支援専任　菊崎　健

以前、５年生の担任をしていたときの事です。理科の「種子の発芽」について学習する際、子どもたちに「昨日、近所の人から魔女と呼ばれている不思議なお婆さんから謎のタネを１つだけもらったのだけど、どうしたらいいかな？」と言ってアボカドの種を見せたことがあります。当時、アボカドは今ほどメジャーな食材ではなく、子どもたちは初めて見る黒い球体を「謎のタネ」と信じ込み、それぞれが想像を膨らませているようでした。「いったい何が育つのだろう？」その好奇心から子どもたちの〈主体的で対話的な学び〉が始まりました。聞き込み調査、調べ学習、意見交換…。程なくして「謎のタネ」は発芽し、根や葉をぐんぐん伸ばしていきましたが、事件は起こります。「謎のタネ」は花を咲かせることも実をつけることもなく枯れてしまったのです。落胆する子どもたちを見守っていると、子どもたちは新たな問いを見つけ出し、〈主体的で対話的な学び〉が再開されます。「どうして枯れてしまったのだろう？」担任である私は最初にアボカドの種を「謎のタネ」と紹介しただけなのに。子どもたちのもつ探求心や可能性、エネルギーに驚かされたのを思い出します。

さて、そんな「謎のタネ」を私たちの目の前にいる「子どもたち」に置き換えるとどんな事が考えられるでしょうか。ぱっと見ただけでは５年後、１０年後の姿は想像できません。仮に想像できたとしても、その想像を遥かに超えた大きな存在になる可能性を十分に秘めています。「子どもたち」はみんな違います。きっと２つとして同じ花、同じ実をつけることはないでしょう。発芽の時期も成長のスピードもみんな違うはずです。それでもいつか自分らしい花を咲かせ、実を結ぶことでしょう。そんな「子どもたち」が自らの可能性を制限されることなくどこまでも根を伸ばし、枝葉を広げられるようにするために、また、「子どもたち」が思うように成長できずに悩んだり、困ったりしている時、私たちに何ができるのでしょうか。

前述のアボカドが（枯れた原因）について、子どもたちがまとめたものの中には「土質・水やりの頻度・日当たり・気温・風通し…」など様々な原因が予想されていましたが、「謎のタネ」そのものに原因があるとする子どもは１人もいませんでした。周囲の環境を適切に整えれば種子は発芽し、成長すると結論づけたのです。

「子どもたち」一人ひとりが思い切り根を伸ばし、枝葉を広げていけるように。保護者の皆さん・地域の皆さん・学校職員が心を１つに「よい土・よい水・よい光」となって支えていくことができれば、新橋小学校は豊かな森となり、「子どもたち」は他者を認め、自分らしさを誇りに先の見えない未来に向かって羽ばたいていけるのではないでしょうか。